

# 町内の会社 紹介します

## ユース株式会社

所在地 桑 郷

代表取締役社長 柴田旭彦氏

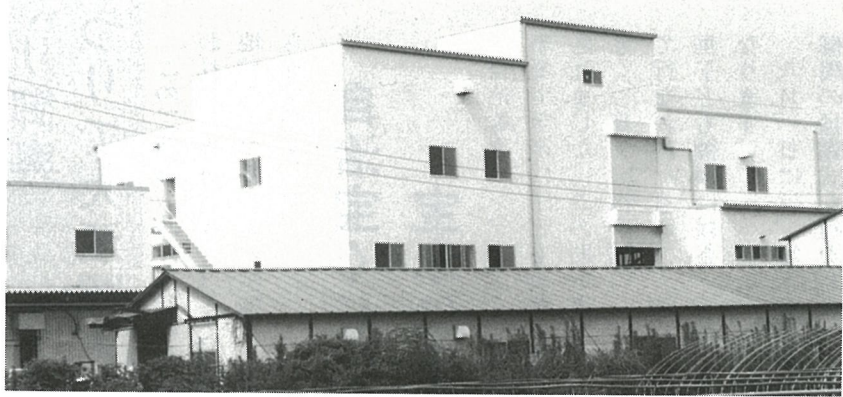
チューインガム・チョコレート  
などを製造

ユース株式会社は、主にチューインガム、チョコレート、ラムネ菓子など各種の菓子類を製造している会社で、特に、チューインガムは、大手二社で販売している以外のガムの九十パーセントがこの会社で製造されます。

製造されるほとんどの食品は、ユース株式会社独自で研究開発されたものです。

現在、健康食品としてビタミンC・Dや、カルシウム、医薬品・医薬部外品(カプセルに入っているか粒の中心部など)の製造もしています。

昭和四十八年に光町工場が建設されてから、市川の本社工場と共に操業していましたが、今年の九月中には、本社工場も全面的に光町に移転されるという



◀新築移転された本社工場

ことで、工場の拡張も済み、始業に向けて工場内の整備が進められています。  
柴田社長さんのお話  
食品を製造しているため、衛生面には細心の注意をしていますが、また本社工場移転に伴ない、町内の方をはじめ、近隣の方がた約二百人をパートとして募集していますので、よろしくお願ひします。

# 町長 ひとりごと

齊藤 譲

まつり

今年ふる里まつりは、天候に恵まれ各地区とも昨年に増してたいへんな盛り上がりであった。町制施行三十周年を記念して蒔いたまつりの種子が、いま多くの町民の支えによって芽を出し、葉をつけはじめたようだ。

このまつりを発足させるにあたっては、議論が百出し、かなりの難産であった。何を目的としているのか。借り物の御輿を担いで意味があるのか。このよう

なものに町の経費を使うのは無駄使用だ。誰れが実施をするのか。経費はどうする。等々消極的な意見が大勢であった。これ

に対し、何としてもまつりを行いたいと強く主張したのが当時数集落で生まれていた囃子若連

であった。近隣市町どこでも盛んに行なわれていて、なぜ光町

がそれをできないのか。若者や子供達に夢を与え、郷土愛を育

くむためにも是非行なうべきだと当時助役であった私に強烈に

迫ってきた。私はその時、久しぶりに若者達の一途で燃えるよ

うな情熱を感じ、たまらなくう

れしく何としても彼等の願いを叶えてやらなければならぬと

決意した。結果的には、若者達の熱意が関係者の心を動かし、

全地区を対象とする『ふる里まつり』が誕生することになったのである。今年で四回目を迎え、凄じいばかりに燃えあがる御輿行列をまのあたりにし、「まつり助役」と評された当時のことが思い出され感慨無量であった。

いま、全国どこの自治体も、地域の活性化とふる里づくりが

政策の中心におかれ、趣向を凝らしたイベントがあちこちで実

施されており、ふる里ブームがまさおこっている。この中で、

まつりはどこでも主役の座にあるようだ。考えてみると、まつ

りほど舞台装置の簡単なものはない。燃える太陽、御輿、囃子、

それに景気づけの冷水があれば十分である。御輿は、借り物で

も、手づくりの樽御輿でも何でもよい。まつりは所詮あそびで

あり理屈ではない。陶醉するよ

うな御輿の魅力は、飛びこんで担いでみなければわからない。ある地区の実行委員長は挨拶で

こういった。「自動車のハンド

ルにはあそびがある。これは安全運転に欠くことのできないものだ。これと同じように、人生にも適当なあそびが必要であり、まつりは人生のあそびだ。」たいへんうまい表現だと思った。だから、まつりの主旨はなどという問いは愚問である。

ところで、今年まつりには新たに二基の見事な本式御輿が登場した。小川台の鈴木武氏、谷中の実川弘夫氏がそれぞれの集落に寄贈したものである。お二人共大工さんで、仕事の合間にコツコツと長い期間をかけて仕上げたものだという。有難いことで頭の下がる思いである。

一方、今年特に中学生の参加が増え、積極的に飛びこんでまつ赤に燃えている姿が爽かであった。また、ある小学校では、校長以下全教職員が子供達といっしょに参加していたことも嬉しいことであり、参加した女性の先生が「子供達が大喜びです。とてもよいことです。」と汗で上気した顔を綻ばせて語りかけてきた姿も忘れられない。

『ふる里まつり』は、いま着実にみんなの心の中に息づきはじめている。ふる里光町を再発見しつつある。この心を絶対に消してはならない。これを守り育てる道は、みんなが参加する以外にはないのである。